

令和7年度益田地域保健医療対策会議医療・介護連携部会 議事概要
(地域医療構想調整会議関係者会議)

【日時】 令和7年12月18日(木) 14:00~16:00

【開催方法】 益田合同庁舎 大会議室 (web 併用)

【出席者】 別添資料のとおり

【議事内容】

- 1 要領改正
- 2 報告
 - ・「新たな地域医療構想について」
 - ・在宅医療・介護の現状
- 3 意見交換
 - テーマ『どのような取組があれば、益田地域で生活し続けられるのか?』
- 4 補助金関係等

【主な意見・協議結果】

- 1 要領改正
 - ・よしか病院、益田市社会福祉協議会に修正→異議なし
- 2 報告
 - 「新たな地域医療構想について」
 - ・医療提供体制の目指すべき方向性としては、すべての地域・世代の患者が適切に医療・介護を受けながら生活し、必要に応じて入院し、日常生活に戻ることができ、同時に医療従事者も持続可能な働き方を確保できる医療提供体制を構築すること。
 - 「在宅医療・介護の現状」
 - ・圏域の病床は、地域医療構想スタートから7割減少し現在628床。慢性期病床の不足が顕著。
 - ・急性期から回復期までの入院医療の圏域内完結率は9割程度。一方で慢性期は隣県、隣圏域への流出が多い。
 - ・在宅における医療や介護の供給体制は、予想される需要に対して不足している。
 - ・救急告知病院であった六日市病院の廃止に伴い、吉賀から益田市内への救急搬送が増加した。

問) 新しい地域医療構想は本日の益田圏域として考えるべきか
答) お見込みのとおり
- 3 意見交換
 - テーマ：どのような取組があれば、益田地域で生活し続けられるか
(退院調整等で益田地域外への人口流出を防ぐために必要な取組について)

問 実際の人口流出のデータはあるか
答 資料2スライド15~16頁

 - ・医療機関での機能分担が必要である。
 - ・回復期・慢性期の受け入れ先の充実。マンパワー・財源確保。地域包括ケアシステムの構築が必要。
 - ・在宅医療・介護サービス(訪問介護等)の充実と連携強化。切れ目のない支援の強化。
 - ・生活支援体制(すまい、買い物支援、通院支援等)の充実。
 - ・医療依存度が高くなる前に町外へ流出あり。予防の視点が重要。
 - ・親の介護で流入もある。
 - ・退院後を見据えた早期からの退院調整とタイムリーな医療介護連携が必要。受け

入れ先の強化。

- ・ 本人の価値観や意向をどう伝えるか大切。
- ・ 家族へのアプローチ、関係者の話し合い、老健や包括ケア病棟を経由して在宅へ帰る流れが必要。
- ・ 地域福祉の強化。
- ・ 実態や実情を知っていただくことが必要。
- ・ 孤独にならない関りが大切。

4 補助金関係等

- ・ 紹介受診重点医療機関
益田赤十字病院、益田地域医療センター医師会病院意向あり → 承認
- ・ 医療機器共同利用計画 → 承認
- ・ 医師確保計画支援事業補助金、地域医療拠点病院 → 報告
- ・ かかりつけ医制度 → 運用開始にかかる報告依頼

*2040年に向けて医療機関の役割、期待する役割や機能と、医療DXを推進するために必要な取組は何かについては、保健医療対策会議にて議論する。対策会議には部会から益田地域医療センター医師会病院、津和野共存病院、よしか病院にオブザーバーとして参加いただき、来年度からは委員としてお願いする。